

# トランプ氏 次のカードは…

## 「予測不能」な米次期大統領 分析イベント相次ぐ

トランプ氏はどう動くのか。大統領選の勝利の背景や日本との関係を読み解く講演や発言が、国内でも相次いでいる。ただ、相手は予測不能の「暴言王」。正解は見いだせるのか。

「誰にも分からない。何の準備もしていないから。望みは、成功した大統領とみられたがっていることだ」。米コロンビア大名誉教授のシエラルド・カーティス氏（日本政治）は18日、上智大学（東京都千代



田区)で前駐米大使の藤崎一郎氏と対談し、トランプ

氏の外交政策などをこう述べた。「東アジアについて、日本には彼を教育する重要な役割がある」とも指摘した。

米通商代表部（USTR）の対日交渉責任者だった米先端政策研究所上席研究員のグレン・フクシマ氏は11日、都内の日本記者クラブでの講演。トランプ氏は上智大の学生らに話すシエラルド・カーティス氏（右）＝東京都千代田区

が勝利宣言で米国民の統合を唱えたことによれば、「どちらが本当のトランプ氏なのか分からない」と評価しきれない様子。「同盟関係で相手国が予測不可能な行動を取るの不安定要因だ」と日本にとっての懸念を示した。

21日夜には、東京都港区の米テンプル大学日本校で、ジャーナリストらが米政治への影響について話す講演会（英語）がある。

## 「人権などの軽視、米の威信は保てない」



著書「反知性主義」（新潮選書）で米国に根強い反

インテリの風潮があることを読み解いた国際基督教大学の森本あんり学務副学長（組織神学）に聞いた。

人種差別や女性蔑視の発言を重ねてきたトランプ氏が勝利したのは、彼の言動を是認する人々が予想以上

### 国際基督教大学・森本あんり学務副学長

に多かつたからだ。民主・共和両党の組織力が壊れ、大衆が伝統的な価値観によらずに投票した結果だ。

オバマ大統領の8年に對する幻滅もあった。国民の統合を掲げたのに分断が進み、ノーベル平和賞を受けた核軍縮も進まない。オバマ路線を継承するクリントン氏が不人気だったのも、無理はない。

トランプ人気の背景には、キリスト教白人福音派の存在がある。女性関係に

だらしなく結婚も3回目のトランプ氏は、明らかに彼らの模範ではない。それでも彼を評価する声が聞かれるのは、米国のキリスト教が土着化した「亜種」だからだ。多くの米国人の心の底には「この世で成功した人間は神の祝福を受けている」との思いがある。世俗的な成功を収めたトランプ氏は、「人間的におかしなところがあっても、神は別のよい所を見て祝福している」と受け入れられた。

歴代大統領の中でトランプ氏が最も似ているのが、第7代のアンドルー・ジャクソンだろう。家柄も学歴もないが露骨な大衆路線で人気を集め、ハーバード大卒のインテリ対立候補を下した。「彼が大統領になったら大変だ」との下馬評に反し、連邦制の基礎を固め、多くの改革を断行して優れた大統領として名を残した。

だが、米国は移民が人工的につくった国で、「我々は将来こうなる」という理念を掲げ統合を図ってきた。トランプ氏は「米国を再び偉大に」と言うが、米国の偉大さは金や軍隊ではなく、自由、平等、人権といった普遍的な価値観を掲げることにある。

こうした価値を軽視すれば米国の威信は保てない。優れた移民を集める力は低下するだろう。憧れを抱いてきた日本人の米国観も「外国人を平気で差別する国」に変わるかもしれない。米国の理念に与えるダメージは深刻だ。